

H-6 熊野古道伊勢路

【山行日】2022年4月27日

【CL】3615 【参加者】421, 2131, 2140, 2196, 2495, 2568, 2752, 2830, 3008, 3240, 3252, 3264, 3426, 3462, 3476, 3586, 3611, 3613

【コース】梅ヶ谷・定坂公園・・・ツヅラト峠大紀町側登り口・・・ツヅラト峠・・・ツヅラト峠北側登り口・・・花広場・・・紀伊長島

お天気の心配をしながらも名古屋を出発。スタート地点ではときどき小雨がぱらつくような天気、このくらいなら傘で間に合うだろうと歩き始めました。しばらく川沿いの道を歩いてから、いよいよ登山道になります。伊勢から紀州への入り口です。ツヅラト峠(357m)は伊勢から補陀落(ふだらく)浄土と熊野三山を目指す苦難の紀州路への入り口だったのです。



ツヅラトとは九十九折(つづらおれ)のことで、折り曲がった坂道でした。神聖な雰囲気のある原始林、中世からの石垣や石畳、中でも「野面乱層積」という自然石をうまく積み上げた石垣は風雨に耐え、今も残っています。イノシシやシカを防ぐための猪垣(ししがき)もたくさん残っています。千年も前からの人々の石を扱う技量の確かさと、この道への思い入れが伝わってくるようです。

峠の頂上からいよいよ紀州に入ります。晴れていればここから熊野の海が初めて見えるはずですが。

ところが神聖な道は、苦難の道でもありました。登り口から間もなくして、「ヒルがいる～！」との叫びが何度も聞こえてきました。前を歩いている人のスパッツにもヒルが付いています。なにしろ小雨で濡れた地面に、湿った空気。ヒルには絶好のコンディション。そこにご馳走が大勢やってきたのだから、ヒルが張り切るのも無理はありません。

ツヅラト峠に到着しても霧で熊野灘は全く見えません。見えるのは地面から這い上がってくるヒルばかり。そんな中でヒルと戦いながらの昼食となりました。

なんとかツヅラト峠の坂道も脱出でき、平地に出てから広場で休憩しました。くつろいでいると、「キャー！」と今までにないくらい大声の悲鳴があがりました。ある女性がズボンの裾を上げてみたら、血を吸ったヒルがいたのです。急いで記録写真を撮ってから、塩水を吹き付けて落としました。それは見事なまでに丸々と太ったヒルでした。



やれやれと思ったら、今度は別の人のスパッツの中にもヒルがいました。二人とも最後尾の班にいたので、前の方の班の人は自分はやられないと涼しい顔をしていました。ところが次の休憩のときに見たら、前後は関係なく、なんと8人も人がヒルにやられて血を流していたのです。

補陀落浄土への道はヒル街道でした。集合写真を撮るのも忘れませんでした。(3240)